

異議申出書

平成29年8月2日

旭市選挙管理委員会 御中

異議申出人 有田恵子

次の通り異議の申出をします。

1、 異議申出人の住所、氏名及び年齢

住所 旭市下永井809番地67

氏名 有田恵子 年齢 64歳

2、 異議申出に係る処分

平成29年7月23日執行の旭市長選挙

3、 異議申出の趣旨

平成29年7月23日執行の旭市長選挙における当選人明智忠直氏の当選は無効とするとの決定を求める

4、 異議申出の理由

4年前、前回市長選では開票10分後には当落が判明し、明智陣営は祝杯を挙げておりました。今回も早期に当落は判明したと、コンピューター担当者は証言しております。どちらが勝っていたかは証言してくれませんでした。明智陣営の立会人はVサインを出しておらず、この段階で明智氏は優勢ではなかった筈です。それどころか、開票が終了後かなりの時間明智陣営の立会人は明智氏当選のVサインを出さず、明智陣営の観客は「一体どうしたのか」と首をかしげておりました。開票が終了しても明智氏の優勢は確認されなかったのです。それなのに、明智氏はダブルスコアで完勝しました。もしこれが事実であれば、開票結果が発表されるまで当落が判明しなかったのは極めて不自然です。考えられることは最終段階、つまり結果報告をプリントアウトする段階で候補者別の得票数をすり替えた、としか考えられません。これは、民主政治の根幹を揺るがす前代未聞の不祥事であり、当然明智氏の当選は当然無効と言えるでしょう。何故、このような不祥事が行われたか、それは有田側の立会人有田良博が欠席し、どんな不正でもできる状況にしたのが根本原因です。しかし、だからといって不正をしてよい理由にはなりません。候補者別の得票数のすり替えは開票結果票に、届け出1番氏名有田恵子得票数7667、届け出2番氏名あけち忠直得票数14502と記入されておりますが、得票数7667と14502をすりかえることは開票結果票を打ち出したパソコン担当者による手打ちで容易になされたものと考えられます。選挙管理委員長は元海上郵便局長であるが、実際の選挙責任者は書記長を兼ねる市役所総務課長です。今回の市長選は旭市の史上最も重要な選挙であるとまで言われ、現体制、新体制共々激戦を呈するものであるだけに、総務

課長を中心とした現体制側職員が現体制維持のため前代未聞の非常手段をとったものと思われます。理由は集計業務を最終読み込みまで選挙管理委員会に属さないシステムに長けた別の課の職員と選挙の女子職員と2人に専用パソコンでやらせながら、最後の開票結果票の打ち込みとプリントアウトだけは選挙管理委員会の別の職員にまかせました。最終段階だけ担当者を変える必要は全くありません。この変えられた別の職員が課長の命令で得票数をすり替えたものと推定しております。こんな不正は職員単独で実行できるはずがありません。総務課長の指示のもと職員が実行したものと推測しております。従って、明智忠直氏の当選は無効であると言えます。

なお、7月26日投票用紙の閲覧を口頭で申し入れたところ拒否されました。私の閲覧要求は立候補者各人の得票数を確認するだけです。個人情報の漏えいに抵触する情報開示を要求しているわけではありません。閲覧を拒否するということが不正が行われていることを証明しております。今回の開票には以下の疑惑があり、投票用紙の確認を要求するのは当然です。しかも、個別の投票用紙を確認するわけではありません。各立候補者の投票用紙の束(100枚)数の閲覧を希望するだけですから拒否する理由は全くありません。

開票に疑惑を抱いた理由を纏めると以下の通りです。

選挙中での市民の反応や、期日前投票の出口調査からダブルスコアでの有田恵子の敗北はあり得ないこと。

開票日での現場では、選挙関係者全員が明智忠直氏側で占められており、有田恵子側には一人も関係者がいなかったこと等により不正が容易に行われる状況にあったこと。有田恵子の立会人有田良博が高齢と身体的理由により欠席の届けを事前にいたしました。代替りのものを立会人にすることが出来ることを知りませんでした。届け出を受けた選挙管理事務担当者もこのことを教えてはくれませんでした。

集計終了は9時42分であったが、用意されたテーブルの上には、9時20分頃にはすでに集計済の有効候補者の全投票用紙が、前回市長選と同様に名札は置かれていないにしろ、1対2の割合で右側と左側に積まれていました。現場近くに居れば、途中経過の報道を待たずして勝敗は10分以内でたれでも一目瞭然でわかったはずですが。無効数350票の仕分けに手間がかかるとは言え、大局には影響のないことはいうまでもありません。にもかかわらず9時42分の広報課職員の白板での記入の発表で結果が全員に知らされました。異常な長い沈黙の時間が流れたことは場内に待機していた全ての人の共通した認識でした。

4年前、前回の市長選は同様に有田恵子と明智氏との一騎打ちでした。前回は午後9時10分ごろに明智氏側立会人のアクション合図により、明智氏陣営に勝利が知らされ祝杯を挙げていたのに、今回は何の動きもありませんでした。ダブルスコアであれば早期に結果は判明しており、立会人が何の合図も起こさなかったのは不自然です。有田陣営に立会人がいれば有田勝利の合図が出せたはずですが、1人も居なかったことから最後までどちらの陣営も勝利のアクションが出せなかったのです。投票用紙仕分け機3台も前回市長選と同じものが使われました。選挙専用パソコンは前回よりもスピード感のあるランクアップしたものが使われていました。今回は参議院選ダブル選挙でもありませんから勝敗は前回よりもさらに早く知ることができたはずですが。ちなみに前回の無効票は637票でした。

以上